



平成19年3月20日
飯田恭次
所
出
版
所
TEL. 3760-3657

号者局
70 頁務
行
第 発 車

世田谷ロマン

玉電(株)に会える店

私は、世田谷生まれの世田谷育ち、玉電と共に生きてきた。玉電は人生の友だったと思う。

その玉電が百年目になると云う。本心に心からおめでとう。一〇〇年を祝いたい。私の店「大勝庵」は旧砦線の中井駅と吉沢駅の間にある。私のコレクションである鉄道部品や写真を展示して、「世田谷ロマン」玉電(砦線)に会える店として人気を集めている。

店内の一角には玉川電車の運転台を置き昔のチンチン電車の雰囲気を味わってもらう。

記念切符や車輪の写真など店内せましと飾り喜んでもらっている。

昭和四四年五月十日東京玉川線と砦線が廃止され、同五十二年四月新玉川線が開通したが、菜の花畑の中を二、三人の客を乗せて、のんびりと走るチンチン電車は過ぎし日の思い出として心に深く残っている。

私の玉電「用賀」

昭和四年、大坪智恵子

昭和四年、バスに代わった「玉電」には忘れられない思い出があります。昭和十七年暮、豊島園の主人の会社の運動会に長男を連れて参加しました。午前中は元気に玉入れ競争を母子で楽しんでいたら、午後から急にぐったりしてきたので慌てて用賀の太田医院に向かいました。炭谷から用賀迄早く／＼と電車に乗りましたが、道のりは遠く漸く用賀に着いた時、おんぶの子供が「ようが」と声を出しました。太田先生に「はしかです。だめなお母さん」って言われました。今でも玉電の用賀は私の思い出です。

玉電開通一〇〇年 思い出それぞれ

玉川電車の思い出

昭和四年 鈴木昭雄

砂利道と呼ばれた昔の歴史を閉じた玉電。昭和の初め頃は天現寺橋より炭谷を通り二子玉川まで大山街道を走り、二子橋を渡り、桃や梨の間を抜け溝の口まで走っていました。世田谷の溝の口の時は溝の口方面より多くの農家の人が農具を求めに、用賀で降りて行きました。昭和の中頃ペコちゃんの愛称で呼ばれた連節車が登場しました。今では常用の電気と空気を併用したブレーキを初めて装備し、時代の先端を行く優れものでした。新幹線の原型とか？多くの話題を残し、昭和四十四年に消え去りました。

皆んな頑張った頃の玉電

昭和四年 石井 健

私の家の軒先に玉電の線路があり玉電が通る度に家が震動して一番電車が目が覚めた事を思い出します。線路際にびわの木があり実が大きくなる六月頃になると、玉電が停車して運転手や乗客が手を伸ばしてびわを取って食べていました。食糧難の昭和三十年頃の事です。のどかな時代でした。炭谷迄一時間以上は当り前で、エシはものすごく、夏は汗だくで遅延証明を貰って通学したものです。当時の利用者は誰れも文句は言わず、皆んな頑張っていた時代でした。玉電は若かった頃を思い出させます。

私と玉電

昭和四年 金子喜久雄

私が子供の頃、用賀にはまだ長閑な田園風景が広がっていました。自動車は今ほど多くなかった時代、玉電は都会(炭谷)に向かう貴重な足でした。しかし、子供が玉電に乗って出掛けることなど減多にありませんでした。高校生になってから用賀と二子玉川間を通学に利用し、その後も廃止までしばしば利用したはずですが、余り記憶に残っていません。むしろまだ電車に乗らなかった頃に見た、用賀神社脇の専用軌道をのんびり走る玉電の風景のほうが今も強く脳裏に焼きついています。

木洩れ日

飯田恭次

花が新緑へと移り行く春節、春、今年から四月二十九日は昭和の日。そして、戦後のベビーブーム第二期生、団塊の世代が定年を迎えます。『ご苦労さま』と云う言葉がマスコミ紙上に飛び交っています。

又、今年は選挙の当り年。統一地方選挙に参議院議員選挙、選挙を過ぎた戦後の社会を見直す貴重な一年になりそうです。

六十年前の昭和二十二年四月、新教育制度がスタート。六・三制が採用され、男女共学、戦時中の国民学校は小学校と改称、各地に新制中学校が誕生しました。五月、日本国憲法が施行、地方自治法と併せて戦後日本の骨組が出来ました。

その後、戦災よりの復興、高度経済成長、日本列島改造、レジャーブーム、バブル経済崩壊と歳月を重ね、平成の世を迎えています。国政では教育基本法と共に憲法改正論議が盛んです。

一方、最近の世相は心痛むニュースが続きます。家族、友人、職場での身近な人間関係が疎遠化、簡単に人の命が失われる事も起っています。

私たちは戦後の経済優先社会の中で忘れてきたものを取り戻す時を迎えているのではないのでしょうか。

郷土紹介

玉電の百年(創業)

郷土史学会 池田良夫

明治四十年三月六日(一九〇七年)の開業なので、玉電は百年目を迎えた。

雨宮敬次郎は明治の鉄道王で、甲武鉄道、江ノ電、東京市街鉄道など手掛けたが、甲武鉄道は最初、甲州街道に計画されたが、高井戸宿の反対で青柳街道方面になってしまったので、世田谷の鉄道は玉電(砂利電)が第一号となった。

明治二十九年十一月、玉川の砂利の輸送に目をつけた渡辺熊之進は、玉川砂利電氣鉄道(株)の設立の願書を提出した。発起人には、玉川村上野毛名家、田中筑閑、駒沢村上馬の旧家、横溝

清太郎が加わった。

明治三十五年二月、玉川(渋谷間の許可を得て、玉川電氣鉄道(株)と社名を改めた。同時に目黒区内に火力発電所を建設、沿線一帯の電気の供給を可能とした。

設立時の資本金は四十万円で発足したが、工事途中で資金不足、東京信託会社から二十四万円の融資により明治四十年の三月六日、道玄坂上(三軒茶屋)がまず開通、翌四月一日に三軒茶屋(玉川(二子玉川)、残りの道玄坂上から渋谷間は、八月十一日で全線開通。客車は十両、定員は四十名、運賃は一区三銭、全線五区で十五銭だった。又、貨物は、一トン一マイルに付き八割五厘であったようだ。



初瀬・泊瀬・長谷

初瀬 泊瀬 長谷

「愛かりける人を初瀬の山おろし はげしかれとは祈らぬものを」と、源頼朝臣この百人一首の初瀬が私の愛する故郷です。四方を山に囲まれた小さな町ですが、古代から教え切れないほどの人が夢を紡ぎにひたすらな思いで歩んだ「こもりくろの治瀬」は、私達日本人の「こころのふるさと」と慕われてきました。万葉集、踏歌日記、源氏物語にも美しいものとして、さまざまな言葉で詠まれています。

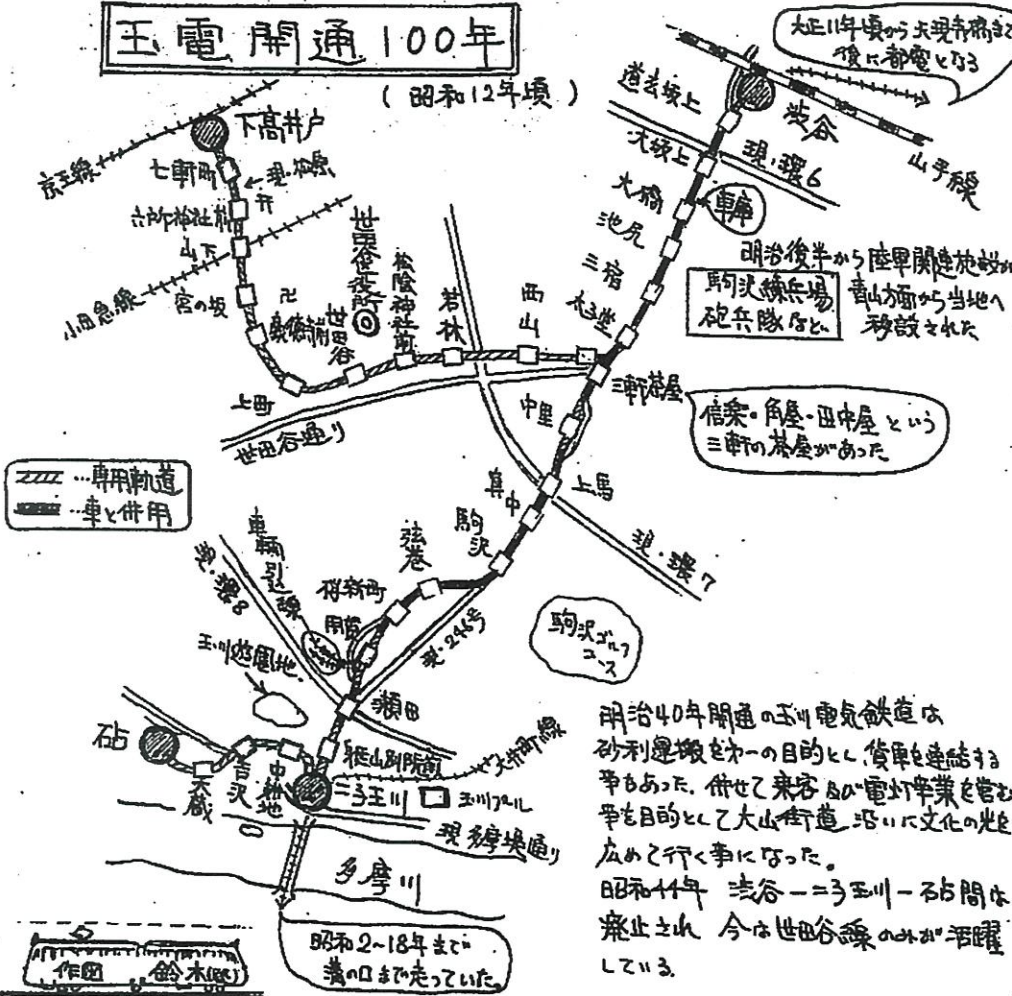
親香信仰(十一面観音)で有名な長谷寺は花の寺と

わが故郷

宮われ、春は桜、初夏は牡丹、しやくなげ、夏はあじさい、秋は紅葉、いちよう、四季折々の美しさで目を惹かせてくれます。仁王門から本堂まで、約四百段の屋根付回廊が続き、その両側に百五十種類、七千株の牡丹の花畑が広がります。それは実にみごとで色と香りの競演です。東京に嫁いで三十年の月日が流れ、最近是一年一度ぐらいしか帰ることのない故郷を思う時——懐かしい自然、幼い頃の思い出——その頃は無邪気に日々を過ごしたけれど、私の素直らしい心の財産だと自慢できる故郷を持てたことを、あらためて嬉しく誇りに思います。



明治40年開通の玉川電氣鉄道は砂利運搬を主目的に、貨車を連結する車もあった。併せて乗客の電灯事業を営む事を目的として大山街道沿いに文化の光を放ちて行く事になった。昭和11年 渋谷-二子玉川-石川間は廃止され、今は世田谷線のみが活躍している。



〇 今年は暖冬の影響で、香節の花々が、例年より早く咲き始め、まち並みが明るく感じられる様です。〇 今回は玉電開通百年を迎え、「ひろば70号」も記念し、当時の懐かしい思い出などを、皆様に語っていただきました。〇 大山街道沿いを走る玉電昭和四十四年まで、多くの人に親しまれ、利用された唯一の電車です。〇 四方を山に囲まれ、素晴らしい自然と共に過ごされた思い出を綴って下さった渡辺さん、故郷の思い出は色褪せる事がないでしょうね。〇 四月は統一地方選挙です。あなたの一票を大切に!

(高橋澄)